



おかげさまで第一生命は、2012年9月に
創立110周年を迎えます。

2012年4月2日

入社式社長挨拶について

第一生命保険株式会社（社長 渡邊 光一郎）は、2012年度「入社式」にあたり、新入職員に向けて、別紙の挨拶をする予定ですので、お知らせ致します。

なお、挨拶は4月2日（月）午前11時00分より、よみうりホール（有楽町ビックカメラ7F）で行われます。

2012年度新入職員

グローバル職	149名
エリア職	58名
総合営業職	413名
機関経営職	56名
<hr/>	
計	676名

新入社員の皆さん、ご入社おめでとうございます。皆さんを心から歓迎します。

「復興と成長」を目指し、将来、歴史的な節目として刻まれるであろう当社110周年となるこの2012年に、皆さんは第一生命グループの新たな仲間として第一歩を踏み出されました。復興と成長への取組みに、皆さんの力が存分に発揮されることを期待しています。

昨年度は、東日本大震災という未曾有の大震災、ギリシャ危機に端を発した世界的な景気の減退という経営環境の中、非常に困難を極める一年でした。しかしながら、こうした年であったからこそ、私たちは生命保険本来の役割発揮という「使命感」を共有化しました。その使命感を中期経営計画の中に活かして具体的な取組みにするために、「保障機能の全面発揮と復興・再生」を掲げて取組みを展開しています。その中で、私たちは多くのことを学びました。

一つは、生命保険の原点である「安心の絆」の大切さです。被災地でのお客さまの安否確認、保険金等のお支払いという生命保険が持つ本来の機能の全面発揮を通じて、生命保険事業とは、お客さまとご家族、大切な人との間に「安心の絆」をお届けするという社会的役割を担っているということを改めて深く心に刻みました。もう一つは、お客さまの側に立って、お客さまの心情に寄り添って、私たちの持ち得る全ての力をお客さま接点強化に注ぎ込むことの大切さです。こうして私たちが学んだことを未来につなげ、次なるステージへ昇る跳躍台として、この110周年という「節目」が大変重要になってきます。

「節目」となる今年度は「生産力の強化」「効率性の追求」「経営品質の向上」を同時に追求していく課題解決型の事業である「110周年事業」へ取り組むことを最重要課題としています。復興に向けた取組みを継続しつつ、「更なる成長の兆しを明確に示し、次のステージへ飛躍する年」として、取り組んでまいります。

檜造りの寺社が幾年もの風雪に耐えられるのは、檜が強く硬い「年輪」を刻んでいたからであり、竹が天に向かって高く伸びていけるのは固い「節」があるからです。組織や人も同じです。組織が永続的な発展をしていくためにも、人が成長していくためにも、しっかりと年輪を刻み、節目節目を固いものにしていくことが大切です。永続的な成長を目指す私たち第一生命グループにとって、そして、私たち一人ひとりにとっても、110周年の今このときが「檜の年輪、竹の節」にあたるということなのです。この110周年において、第一生命グループ6万人全員で持ち前のチームワーク力を発揮して、「いちばん、人を考える会社になる」というグループビジョンの実現に向けて邁進し、その先に目指す「欧米大手生保に伍する保険グループ」に向けた確かな一歩を刻みましよう。

これからも続く長い歴史の中で、第一生命グループが大きく成長した時に、振り返ってみると、110周年という大きな節目と一緒に築いた仲間であったことを誇りに思えるような、そのような一年にしたいと思えます。

これからの皆さんの活躍を大いに期待し、歓迎の言葉といたします。

以上